

黒島規史

東京外国語大学大学院／日本学術振興会特別研究員

## 1. はじめに

現代朝鮮語（以下、朝鮮語）には、‘PUT’「置く」という語彙的意味を持つ動詞に noh- と twu-<sup>2)</sup>の二つがあり、それぞれ文法化して日本語の「ておく」のように補助動詞として用いられる。補助動詞 -(a/e) noh- と -(a/e) twu-<sup>3)</sup>の意味的差異の比較を行った研究は多く、それぞれの意味について、様々な見解が出されている。また同様の語彙的意味を持つ動詞が文法化した日本語の「ておく」との対照研究もしばしば行われてきた。李 (2012) も指摘するように、これまでの多くの研究で、二つの補助動詞 -(a/e) noh- と -(a/e) twu- の意味をどちらも結果状態の「維持」と規定してきた。一方で、-(a/e) noh- の意味に、なんらかの「完了」の意味を持つと記述した研究もあった。例えば、次の (1), (2) を比べると、ある状態の移行（死にそうな状態から生存状態へ）を表す場合は -(a/e) noh-, 状態の維持を表す場合は -(a/e) twu- が自然であることがわかる。

## (1) 죽어가는 환자를 살려 놓았다. / ? 두었다.

cwuke#ka-nun hwanca=lul sallye noh-ass-ta. / ? twu-ess-ta.

死ぬ#行く-ADN.NPST 患者=ACC 生かす:ADV おく-POST-DECL/おく-POST-DECL

「死にそうな患者を助けた (lit. 生かしておいた)」

## (2) 그때까지 살아 있던 사람은 살려 두었다. / ? 놓았다.

kuttay=kkaci sal-a iss-ten salam=un sallye twu-ess-ta. / ? noh-ass-ta.

そのとき=まで 生きる-DUR-ADN.IMPF 人=TOP 生かす:ADV おく-POST-DECL/おく-POST-DECL

「そのときまで生きていた人は生かしておいた」

(I, Kitong 1979: 76)

常にこの例のように二つの補助動詞の意味的差異が明らかなわけではないが、-(a/e) noh- に状態の移行のような意味があることがわかる。

本研究では -(a/e) noh- を主な対象とし、従来の研究で指摘されてきたような -(a/e) noh- の完了等の意味を、実例の分析を基にさらに詳しく記述することを目的とする。そして、-(a/e) noh- は対象への働きかけよりも動作の結果(物)に焦点があるということを主張する。

これ以下の本稿の構成は次のとおりである。2節で主に -(a/e) noh- に関する先行研究について取り上げる。3節では本研究で用いるデータを示し、研究対象の限定を行う。4節では形態、統語的特徴から -(a/e) noh- の意味を明らかにする。5節では、4

節で明らかにした  $-(a/e)noh-$  の意味と、 $-(a/e)noh-$  が取る V1 の特徴との関係について論じる。6 節では  $-(a/e)noh-$  の取る V1 の意味を大きく二つに分類したうえで、 $-(a/e)noh-$  の表す意味を、Croft の因果連鎖 (causal chain) を用いて示す。7 節では他の言語における [V1+PUT] と  $-(a/e)noh-$  を簡単に対照する。最後に 8 節は本研究のまとめと今後の課題である。

## 2. 補助動詞 $-(a/e)noh-ta$ に関する先行研究

韓国における研究では、補助動詞  $-(a/e)noh-$  は他の補助動詞の中で一緒に扱われることが多く、これに関する本格的な研究はそれほど多くない。ここでは  $-(a/e)noh-$  と  $-(a/e)twu-$  との対照研究や  $-(a/e)noh-$  を対象にした研究に限って先行研究を概観し、これまでに明らかになっている  $-(a/e)noh-$  の意味機能について整理する。

$-(a/e)noh-$  を中心的に扱った研究としては I, Kitong (1979) がある。ここでは I, Kitong (1979) の記述に基づいている Lee (1993) を取り上げ、 $-(a/e)noh-$  の意味について概観する。Lee (1993) は動詞  $noh-$  「置く」の意味が補助動詞として文法化したあとでも本来の動詞の意味を維持しているという立場から、 $-(a/e)noh-$  の意味を考察している。Lee (1993: 225) は動詞  $noh-$  の「主体がある物を放すと、物は主体のコントロール、所有、責任を離れ、主体は自由になる」という意味を補助動詞の  $-(a/e)noh-$  も持つと述べ、(3) のような例を挙げている。下線は引用者による。

### (3) a. 그는 밭을 갈고 점심을 먹었다.

ku=nun path=ul kal-ko cemsim=ul mek-ess-ta.  
 彼=TOP 畑=ACC 耕す-ADV.SEQ 昼食=ACC 食べる-PST-DECL  
 「彼は畑を耕し、お昼を食べた」

### b. 그는 밭을 갈아놓고 점심을 먹었다.

ku=nun path=ul kal-a#noh-ko cemsim=ul mek-ess-ta.  
 彼=TOP 畑=ACC 耕す-ADV#おく-ADV.SEQ 昼食=ACC 食べる-PST-DECL  
 「彼は畑を耕し終え、お昼を食べた」

(Lee1993: 225)

Lee (1993: 226) によれば、(3a) の場合二つのイベントを通常それが済んだ順に列挙するのに対し、(3b) はさらに最初に畑を耕すという動作を終えて、主体の手から離れてからお昼を食べたという意味が加わるという。また、Lee (1993: 225) は動詞  $noh-$  が「ある物を放すと、それは別の場所に至り、そこに安定した状態で残る」という意味を持つように、補助動詞の  $-(a/e)noh-$  も「あるプロセスが終点に至ると主体のコントロールを離れ、なにかが存在するようになる」という意味を持つと述べている。



(4) a. 그는 집을 지었다.

ku=nun cip=ul ci-ess-ta.

彼=TOP 家=ACC 建てる-PST-DECL

「彼は家を建てた」

b. 그는 집을 지어 놓았다.

kun=un cip=ul cie noh-ass-ta.

彼=TOP 家=ACC 建てる:ADV おく-PST-DECL

「彼は家を建てた (そして家が存在する)」

(Lee1993: 227)

Lee (1993: 227) によれば, (4a) の例では動作主が家を建てるという行為をしたことのみを表すが, (4b) はさらに家ができたという結果の意味までを含むという。

上述の Lee (1993) は (3), (4) で見たように -(a/e) noh- の意味を大きく二つ動作の完了と結果への達成に分けている。岡 (2006) も Lee (1993) の考えを基本的に受け継ぎつつ, 意味を細分化して記述し, -(a/e) noh- の意味を結果状態の残存と完了に大別している。

李 (2012) は動詞 noh- 「置く」が持つ「位置移動変化」からの意味拡張という観点で考察を行い, やはり -(a/e) noh- の意味を大きく二つに分けている。一つは具体物から抽象物まで様々な移動変化に関わる意味拡張であり, もう一つは状態変化やある事態の産出に関わる意味拡張である。

Rhee (1997), 岡 (2006), 李 (2012) の研究はいずれも本動詞から補助動詞への文法化, あるいは意味拡張について扱っている。本研究ではこれらの先行研究を参考にしつつも, あくまで実例の分析から -(a/e) noh- の意味を明らかにする。本研究では -(a/e) noh- の意味を結果状態の維持とは見ず, 完了だと考えるが, これまで -(a/e) noh- の意味記述で用いられてきた完了というのはどのような事象を表すのかについて, より詳しく記述することを目的とする。

### 3. データと研究対象

#### 3.1. コーパス

本研究では朝鮮語の実際のデータに基づいて -(a/e) noh- を分析する。用例の収集にあたっては “21 seyki seycongkyeyhoyk choycong sengkwamwul” (21 世紀世宗計画最終成果物) を利用する。利用するデータは, 1980 年以降に韓国で刊行された作品を用い, ジャンルは小説, ドラマ脚本, 映画シナリオ, 戯曲に限定したうえで, 歴史小説やソウル方言以外の方言が大量に混在する作品は除外した。コーパスの規模は全 311 作品, 約 940 万語節である。この中から -(a/e) noh- の用例を収集した結果, 全部で 13,598 例を得ることができた。

### 3.2. 用例収集結果と研究対象の限定

コーパスから得られた結果を基に, -(a/e) noh- が取る動詞の傾向を見てみる. 以降, -(a/e) noh- が取る動詞を V1 と呼ぶことにする. 延べ語数の多いほうから順に 50 位までを示すと表 1 のとおりである.

表 1: 補助動詞 -(a/e) noh- が取る V1 の出現頻度

順位	V1 の動詞	頻度	順位	V1 の動詞	頻度
1	nayli- 「下ろす」	1206	26	mil- 「押す」	101
2	nay- 「出す」	1047	27	anchi- 「座らせる」	98
3	nul- 「伸びる」	691	28	mou- 「集める」	96
4	olli- 「上げる」	663	29	malha- 「言う」	94
5	thel- 「はたく, はらう」	509	30	tenci- 「投げる」	81
6	tuli- 「入れる」	291	31	kule- 「そうする」	78
7	mantul- 「作る」	271	32	pakkwu- 「変える」	75
8	seywu- 「立てる」	243	33	chali- 「準備する, 整える」	75
9	ppay- 「抜く」	224	34	phye- 「広げる, 伸ばす」	74
10	ttey- 「取る, 離す」	216	35	chi- 「打つ」	72
11	yel- 「開ける」	187	36	mwukk- 「束ねる」	70
12	kkenay- 「取り出す」	158	37	mathki- 「預ける」	69
13	phwul- 「解く」	157	38	pat- 「受ける, もらう」	69
14	namki- 「残す」	150	39	tay- 「当てる」	67
15	pwuthi- 「付ける」	143	40	swumki- 「隠す」	64
16	khye- 「点ける」	141	41	cek- 「記す」	64
17	thul- 「ひねる」	138	42	enc- 「載せる」	62
18	olmki- 「移す」	127	43	kkal- 「敷く」	60
19	kel- 「掛ける」	126	44	teph- 「覆う」	58
20	pes- 「脱ぐ」	125	45	kuli- 「描く」	57
21	tulenay- 「あらわにする」	109	46	kkoc- 「挿す」	57
22	ssah- 「積む」	108	47	twicip- 「ひっくり返す」	57
23	ssot- 「こぼす」	108	48	thu- 「開く, 親しくする」	57
24	phyelchi- 「広げる」	106	49	cap- 「つかむ」	55
25	ssu- 「書く」	104	50	kalu- 「分ける, 割る」	52

先行研究ですでに指摘されているように, V1 に来るのは基本的に他動詞である. 網かけをした動詞は全て -i-, -hi-, -li-, -ki-, -wu-, -kwu-, -chwu- というヴォイス接辞<sup>4)</sup>を取りうるか, あるいは取っている動詞である<sup>5)</sup>. 表 1 を見るとわかるように, V1 にはヴォイス接辞を取りうる, あるいは取っている動詞が多いことがわかる. このような



-(a/e)noh- の V1 として現れる動詞と -(a/e)noh- の意味の関係については、5 節で考察する。Lee (1993: 235-238) では -(a/e)noh- の V1 が取る動詞の制約についても述べており、自動詞や, ip-「着る」, moca=lul ssu-「帽子をかぶる」などの「着衣」動詞は -(a/e)noh- の V1 になれないと指摘している<sup>9)</sup>。

表 1 を見てみると、上から 5 番目までは他と比べ特に延べ語数が多い。これらは kwuklipkwukeyenkwuwen [国立国語研究院] (1999) の “phyocwunkwuketaysacen” [標準国語大辞典] にも見出し語として立項されている。1 番多かった nayli-「下げる」と 4 番目の olli-「上げる」は物を下ろして置く、上げて置く場合には -(a/e)noh- の形を取るものがほぼ必須であり、本動詞の「置く」という意味をそのまま残し、複合動詞になっていると考えられる。また 2, 3, 5 番目に多かった nay-「出す」, nul-「伸びる」, thel-「はたく、はらう」は、-(a/e)noh- として用いられることで新たな意味を獲得し、それぞれ「(秘密などを) さらけ出す、(意見などを) 発表する」「ずらりと並べる、(言葉)を並べ立てる」「打ち明ける」といった意味を表す。本研究ではこれらは複合動詞と見做し、今回は扱わないこととする。ちなみに、岡 (2006: 429) は本動詞としての noh-「置く」の意味が直接継承されたものとして、naylye#noh-「下げる」、ollye#noh-「上げる」を、本動詞から補助動詞への意味拡張という観点からは重要であると述べている。李 (2012) では明言していないものの、引用されている例を見るかぎり複合動詞の例も対象に含めているために、位置移動変化を表す例が極端に多くなっている。その結果、李 (2012) では位置移動変化という意味が -(a/e)noh- の中心的な意味であり、そこから意味の拡張が起こったという結論に至っていると考えられる。

その他、-(a/e)noh- には聞き手を非難するニュアンスのある用法がある。(5) がこの例である。日本語の「ておく」にも「～しておいて」の形で同じように聞き手を非難する用法があるのは朝鮮語と共通している。

(5) 근데 오랜 왜 어제 저녁에 온다고 해 놓고 안 왔어?

kuntay oppa=n way ecey cenyek=ey o-nta-ko hay noh-ko  
 でも お兄さん=TOP なぜ 昨日 晩=DAT 来る-DECL-COMP 言う:ADV おく-ADV.SEQ  
 an wass-e?  
 NEG 来る:PST-INTRR.NPOL

「でもインギュさんはなんで昨日の晩に来るって言っといて来なかったの？」

[2CJ00060]

また、-(a/e)noh- には (6) のように主に -(a/e)nwa-se (-ADV おく-ADV.SEQ) の形で理由を表す用法があるが、この場合は V1 の制約がなくなり、自動詞だけでなく形容詞も V1 になることが可能である。このような用法の場合の例も本研究では対象から除外しておく。この例では -(a/e)noh- が pissa-「(値段が)高い」という形容詞を取って、理由を表している。

(6) 그렇지만 야채류는 워낙 단가가 비싸 놔서...

kulehciman yachaylyu=nun wenak tanka=ka pissa nwa-se...

しかし 野菜類=TOP なにしる 単価=NOM 高い:ADV おく-ADV.SEQ

「しかし野菜類はなにしろ単価が高いからな…」 [CJ000234]

4. 形態的, 構文的特徴から見た補助動詞 -(a/e) noh-ta の意味

Son, Seymotol (1996) は [V1 + PUT] という共通点を持つ -(a/e) noh- と -(a/e) twu- を一緒に扱い, これらは完了という意味を共有しつつも, 「結果持続」を表すと述べている.<sup>7)</sup> Son, Seymotol (1996) はこれら二つの補助動詞が完了という意味を持つことを, i) 中断を表す連用形語尾 -taka と動詞 mal- 「やめる」が連続した -taka mal- 「～していたがやめる」, ii) 時間順的な同時関係を表す連用形語尾 -myense 「～ながら」の二つの結合制約から検証している. (7a) は補助動詞が結合していない例で自然な文であるが, (7b) は補助動詞が結合することにより容認不可となる. (8) も同様, 補助動詞が結合することにより容認不可となる. i), ii) はどちらもある事態の未完了と関わる文法標識であり, これらとの結合が容認不可となることは, 二つの補助動詞 -(a/e) noh-, -(a/e) twu- が完了という意味を持つことの証拠となる.

(7) a. 여행갈 물건을 챙기다가 말았다.

yehayng#ka-l mwulken=ul chayngki-taka mal-ass-ta.

旅行#行く-ADN.IRR もの=ACC 揃える-ADV.DISC やめる-PST-DECL

「旅行に行くものを揃えていてやめた」

b. \* 여행갈 물건을 챙겨 놓다가 / 두다가 말았다.

yehayng#ka-l mwulken=ul chayngkye noh-taka / twu-taka

旅行#行く-ADN.IRR もの=ACC 揃える:ADV おく-ADV.DISC / おく-ADV.DISC

mal-ass-ta.

やめる-PST-DECL

「\* 旅行に行くものを揃えておいてやめた」

(Son, Seymotol 1996: 168)

(8) \* 새로운 이론을 검토해 {놓으면서 / 두면서} 논의를 계속 한다.

saylowu-n ilon=ul kemthohay {noh-umyense / twu-myense}

新しい-ADN.NPST 理論-ACC 検討する:ADV おく-ADV.SIM / おく-ADV.SIM

nonuy=lul kyaysok ha-nta.

議論=ACC 継続 する-DECL.NPST

「\* 新しい理論を検討しておきながら議論を続ける」 (Son, Seymotol 1996: 169)

上に引用した Son, Seymotol (1996) の例から -(a/e) noh- に完了的な意味があることは確認できたが, 本研究では以下でさらに詳しくこの補助動詞の意味について考察し



ていく。ここで注目するのは i) 過去連体形, ii) 連用形語尾 *-ko*, iii) アスペクト形式 *-ko iss-*, iv) 結果性を表す副詞, v) 不特定の主体という観点である。これらの観点から *-(a/e) noh-* は対象への働きかけよりも動作の結果(物)に焦点があるということを、形と意味の両面を検討することにより、客観的に論じていく。

#### 4.1. 過去連体形を取る場合

*-(a/e) noh-* の用例を考察すると、過去連体形(～した NP)を取る例が多くみられる。例えば *seywu* 「立てる」の場合、全用例 243 例中 57 例、およそ四分の一は過去連体形で現れた。孫 (2012: 15-6) は *-(a/e) noh-* が過去連体形を取る場合について、次の (9) のような *-(a/e) noh-* がない場合と (10) のような *-(a/e) noh-* がある場合を比較している。孫 (2012: 15-6) は (9) では動作主(女性の顔)の変化に焦点が置かれ、(10) では動作の対象(サンダル#片方)に焦点が置かれていると指摘している。ラテン文字転写、グロスは引用者による。

##### (9) 안경을 벗은 여인의 얼굴은 아까와는 많이 다른 모습이다.

ankyeng=ul pes-un yein=uy elkwul=un akka=wa=nun manhi  
眼鏡=ACC 脱ぐ-ADN.PST 女性=GEN 顔=TOP さっき=COM=TOP たくさん  
talun mosup-i-ta.  
違う-ADN.NPST 姿-COP-DECL.NPST

「眼鏡を外した女性の顔はさっきとはずいぶん違った姿だ」(孫 2012: 16)

##### (10) 어쩌다 강냉이가 너무 먹고 싶은 나머지 자기 엄마가 벗어 놓은 고무신짝을 들고 나오는 아이도 있었다.

ecceta kangnayngi=ka nemwu mek-ko siph-un nameci caki emma=ka  
たまに ポン菓子=NOM とても 食べる-DESI-ADN.NPST あまり 自分 母=NOM  
pes-e noh-un komwusin#ccak=ul tul-ko nao-nun ai=to  
脱ぐ-ADV おく-ADN.PST サンダル#片方=ACC 持つ-ADV.SEQ 出る-ADN.NPST 子=も  
iss-ess-ta.  
いる-PST-DECL

「たまにポン菓子食べたさに、母親が脱ぎ捨てたサンダル#片方を持ってきて  
しまう子どもまでいた」(孫 2012: 16)

これらの例からもわかるように、*-(a/e) noh-* は動作の影響を受ける対象に焦点があると考えられる。次の (11), (12) の例においても同様であり、(11) の場合は *thipui* 「TV」、(12) では *senenmwun* 「宣言文」がそれぞれ動作の影響を受けた名詞である。

- (11) 무심히 켜놓은 티브이에서 여덟시를 알리는 시보가 들린다.

mwusimhi khye#noh-un thipui=eyse yetelp#si=lul alli-nun  
 何気なく つける#おく-ADN.PST TV=ABL 8#時=ACC 知らせる-ADN.NPST  
 sipo=ka tulli-nta.  
 時報=NOM 聞こえる-DECL.NPST

「何気なくつけておいたテレビから 8 時を知らせる時報が聞こえてくる」

[4BE99008]

- (12) 밖에 나가보니 K의 방문에 붙여놓은 선언문은 그대로 붙어 있었다.

pakk=ey naka#po-ni K=uy pangmwun=ey pwuthye#noh-un  
 外=DAT 出る.ADV#みる-ADV.COND K=GEN 部屋の戸=DAT 付ける.ADV#おく-ADN.PST  
 senenmwun=un kutaylo pwuth-e iss-ess-ta.  
 宣言文=TOP そのまま 付く-DUR-PST-DECL

「外に出てみると, K の部屋の戸に張っておいた宣言文はそのまま張られていた」 [2BEXXX19]

単純動詞に比べ, 補助動詞 -(a/e) noh- と結合した場合は, 過去連体形において, 被修飾名詞が動作の対象であるという指摘をさらに検討してみることにする. 用例数が比較的多かった, V1 が seywu-「立てる」である場合を例に取ってみよう. 補助動詞と結合する場合としない場合とで, それぞれが過去連体形になった例を比較し, 後続する被修飾名詞が動作主体であるか動作の対象であるかを調べてみた. 基礎資料から seywu-「立てる」の過去連体形 seywu-n を抽出したところ, 全部で 205 例得られた. ここから被修飾名詞が依存名詞 chay 「(〜た) まま」, kes 「もの, こと」, kos 「ところ」や hwu 「後」, taum 「次」を取り迂言的形式を成す例, 全 77 例を除くと 128 例になる. この 128 例中, 動作の主体となっている例は 55 例で, 43% を占めていた. これに対し -(a/e) noh- と結合した全 57 例から同じく依存名詞などが被修飾語となる例を除いた全 41 例中, 被修飾名詞が動作の主体であると解釈される例は 1 例も見付からなかった.  
 ⑧ この結果を下の表 2 にまとめておく.

表 2: 単純動詞と補助動詞 -(a/e) noh- が過去連体形の場合の被修飾名詞

過去連体形	被修飾名詞	動作の主体		
		動作の主体	動作の対象	計
単純動詞	seywu-n	55 (43%)	73 (57%)	128 (100%)
+補助動詞	seywe noh-un	0 (0%)	41 (100%)	41 (100%)

さらに, 孫 (2012:16-17) では, pesun 「脱いだ」と pese noh-un 「脱いでおいた」の両者ともに動作を受ける対象を修飾している例を比較しつつ, 前者は動作が終わったあと, すぐ次の動作に取りかかるようだが, -(a/e) noh- を含む後者は脱いでからしば



らく時間が経っているというニュアンスがあると指摘している。

#### 4.2. 連用形語尾 -ko を取る場合

-(a/e)noh- の用例を見ると、過去連体形とともに多いのが、連用形として -ko 「～て」を取る例である。朝鮮語には時間順的な先行を表す連用形語尾に主に -ko と -(a/e)se の二つがある。前者は従属節と上位節の述語のどちらも他動詞の場合、節間で目的語を共有しない。一方、後者は目的語を共有することができる。例 (13a) に見るように、連用形語尾 -ko を用いた例では目的語である pha 「葱」は上位節（主節）の mek-ess-ta 「食べた」と共有されず、この文だけではわからないが例えば葱が入っていた料理を食べたという含意がある。一方、連用形語尾 -(a/e)se を用いた (13b) では目的語が主節と共有され、葱を食べたという意味になる。

##### (13) a. 파만 빼고 먹었다.

pha=man ppay-ko mek-ess-ta.

葱=だけ 抜く-ADV.SEQ 食べる-PST-DECL

「葱だけ抜いて食べた」(葱は食べなかった)

##### b. 파만 빼서 먹었다.

pha=man ppay-se mek-ess-ta.

葱=だけ 抜く-ADV.SEQ 食べる-PST-DECL

「葱だけ抜いて食べた」(葱だけ食べた)

このように、-ko を用いると通常上位節と目的語が共有されないが、-(a/e)noh- の場合は状況が異なり、上位節と目的語の共有が可能である。(14) の例では、ssah-a#noh-ko 「積んでおいて」の目的語 si wenko 「詩の原稿」が上位節の ilk-e#naylye ka-mye 「読んでいき」と共有されている。

##### (14) 그녀는 꼭 백여 편도 더 되는 시 원고를 캐비닛에서 꺼내 책상 위에 쌓아놓고 한 편씩 읽어내려 가며 교정을 보기 시작했다.

kunye=nun kkok paykye phyen=to te toy-nun si wenko=lul

彼女=TOP 必ず 百余 篇=も さらに なる-ADN.NPST 詩 原稿=ACC

khaypinis=eyse kkenay chayksang wi=ey ssah-a#noh-ko han

キャビネット=ABL 取り出す.ADV 机 上=DAT 積む-ADV#おく-ADV.SEQ ひとつ

phyen-ssik ilk-e#naylye ka-mye kyoceng=ul po-ki sicakhay-ss-ta.

篇-ずつ 読むP-ADV #下る:ADV 行く-ADV.SIM 校正=ACC 見る-NMLZ 始める-PST-DECL

「彼女は間違いなく百余篇はくだらない詩の原稿をキャビネットから取り出し、机の上に積んでおいて、一篇ずつ読んでいきながら校正を始めた」

[BRE00085]

このように、通常上位節と目的語の共有をしない -ko を取っても上位節と目的語を共有するということから考えても -(a/e)noh- は動作そのものよりも、その動作の結果生じた事態に焦点があるということが確認できる。他の例も挙げておく。次の (15) では上位節と目的を共有しているわけではないが、上位節（主節）でも書類が積まれた状態であることが含意されている。

(15) 윤회장은 서류를 잔뜩 쌓아놓고 전화를 하고 있다.

yun#hoycang=un selyu=lul canttuk ssah-a#noh-ko cenhwa=lul

ユン#会長=TOP 書類=ACC たくさん 積み-ADV#おく-ADV.SEQ 電話=ACC

ha-ko iss-ta.

する-PROG-DECL.NPST

「ユン会長は書類をどっさりと積んでおいて電話をしている」 [3BN20014]

4.3. アスペクト形式 -ko iss- を取る場合

ここでは -(a/e)noh- が進行を表すアスペクト形式 -ko iss- を取る場合を取り上げる。朝鮮語のアスペクト形式には再帰的な動詞を除けば通常動作の進行を表す -ko iss- と、結果の継続を表す -(a/e)iss- がある。(16) は -ko iss- が動作の進行を表す典型的な例を示したものである。

(16) 그 아이는 지금 울고 있다.

ku ai=nun cikum wul-ko iss-ta.

その子供=TOP 今 泣く-PROG-DECL.NPST

「その子供は今泣いている」 (Se, Cengswu 1994: 212)

基礎資料中には -ko iss- を取る例が 387 例現れた。-(a/e)noh- が -ko iss- を取る場合、ほとんどが進行ではなく、結果の持続を表している。単純動詞 noh- 「置く」が -ko iss- を取る場合はスローモーションでない限り反復する事態を表すが、-(a/e)noh-ko iss- (-ADV おく-PROG-) では V1 の動作の結果状態が続いていることを意味する。このような事実も -(a/e)noh- の結果に焦点があることの傍証となるだろう。次の (17) では「線が書かれている」ことを、(18) では「窓が開いている」ことを意味している。

(17) 그 지도는 여전히 철도를 명확한 선으로 그려놓고 있었다.

ku cito=nun yecenhi chelto=lul myenghwakha-n sen=ulo

その 地図=TOP 依然として 鉄道=ACC 明確な-ADN.NPST 線=INST

kulye#noh-ko iss-ess-ta.

描く-ADV#おく-PROG-PST-DECL

「その地図は依然として鉄道を明確な線で描いていた」 [BRE00283]



(18) 이제 한여름 더위에도 창문을 열어 놓고 있기가 두려웠다.

icey hanyelum tewi=ey=to changmwun=ul yel-e noh-ko iss-ki=ka  
 もう 真夏 暑さ=DAT=も 窓=ACC 開ける-ADV おく-PROG-NMLZ=NOM  
 twulyew-ess-ta.  
 怖い-PST-DECL

「もう真夏の暑さといえど窓を開けているのが怖かった」 [4BE00014]

岡 (2006: 431) では, -ko iss- を取る例について, 日本語との対照から結果存在の「テアル, (ラレ) テイル」に対応すると述べている.

#### 4.4. 結果性を表す副詞との共起

-(a/e) noh- が動作よりも結果に焦点があるということをよく表している例を見てみよう. (19) は「いくつにも裂けた様子」を表す副詞 *kalkikalki* が用いられた例である. -(a/e) noh- を用いない場合, 副詞は動作自体を修飾するが, -(a/e) noh- が用いられると, 客体に起こった結果を修飾するようになる. 例えば (19a) の例では「びりびりと」というように動作自体を修飾する一方で, -(a/e) noh- を用いた (19b) の例では「びりびりに」というように動作の結果を修飾する. つまり, ここでは紙がびりびりになったということである.

(19) a. 종이를 갈기갈기 찢었다.

cong-i=lul kalkikalki ccic-ess-ta.  
 紙=ACC びりびり 裂く-PST-DECL  
 「紙をびりびりと裂いた」

b. 종이를 갈기갈기 찢어 놓았다.

cong-i=lul kalkikalki ccic-e noh-ass-ta.  
 紙=ACC びりびり 裂く-ADV おく-PST-DECL  
 「紙をびりびりに裂いた」

基礎資料から実例を見てみよう. (20) では「戸などが思い切り開いたようす」を表す副詞 *hwalccak* 「ぱつと」が用いられている. -(a/e) noh- を用いると, 勢いよく開くという動きを修飾しているというよりは, 戸が全開になっている動きの結果を表している. (21) は「物を整然と積んだり重ねたりするようす」を表す *chakokchakok* 「きちんきちんと」と共起した例であり, やはりきちんと積まれているという結果を表している.

- (20) 여선생은 종종 방문을 활짝 열어놓고 앉아서 뉘 나간 얼굴로 몇 시간이고  
마당의 화단을 바라보았다.

yesensayng=un congcong pangmwu=nul hwalccak yel-e#noh-ko

女教師=TOPしばしば ドア=ACCぱっと開ける-ADV#おく-ADV.SEQ

anc-ase neks naka-n elkwul=lo myech sikan-iko matang=uy

座る-ADV.SEQ 魂出る-ADN.PST 顔=INSTいくつ 時間-でも 庭=GEN

hwatan=ul palapo-ass-ta.

花壇=ACC眺める-PST-DECL

「女教師はしばしばドアをぱっと開けておいたまま座って魂が抜けた顔で何  
時間でも庭の花壇を眺めていた」[4BE00006]

- (21) 나는 아이를 안고 뒤쪽으로 달려가 차곡차곡 개어 놓은 기저귀 중에서  
하나를 꺼내 젖은 기저귀를 버리고 새로 갈아 주었다.

na=nun ai=lul an-ko twiccok=ulo tallye#ka chakokchakok

わたし=TOP 子供=ACC 抱く-ADV.SEQ 後方=ALL 走る:ADV#行く:ADV きちんと

kay-e noh-un kicekwi cwung=eyse hana=lul kkenay cec-un

畳む-ADV おく-ADN.PST おむつ なか=ABL ひとつ=ACC 取り出す:ADV 濡れる-ADN.PST

kicekwi=lul peli-ko saylo kal-a cwu-ess-ta.

おむつ=ACC 捨てる-ADV.SEQ 新たに 替える-ADV あげる-PST-DECL

「わたしは子供を抱いて後の方に走って行って、きちんと積まれたおむつの  
中から一つを取り、濡れたおむつを捨て、新しく替えてあげた」[4BE86001]

#### 4.5. 不特定の主体の場合

最後に -(a/e)noh- の主体が特定できないような場合の例について見ることにする。孫 (2012: 21-23) では動作主が特定されない、あるいは無生物主語の場合の -(a/e)noh- を「結果パーフェクト」と呼び区別しているが、このような例も動作の過程よりも結果に焦点があるという -(a/e)noh- の特徴をよく示している例であり、これを区別して記述する必要はないと考えられる。(22)を見ると、誰がポンプを取り付けたかは特に言及されていない。動作の過程ではなく、動作の結果に焦点があり、動作主を焦点化しないためこのような表現が可能なのだと考えることができる。このような場合の -(a/e)noh- は日本語の「ておく」で表すことはできない。



- (22) 펌프를 박아 놓은 공동 우물까지 가려면, 우리 집에서 십 분쯤 더 아래로 내려가야 했다.

phemphu=lul pak-a      noh-un      kongtong      wumwul=kkaci  
 ポンプ=ACC    打ち込む-ADV    おく-ADN.PST    共同      井戸=まで  
 ka-lye-myen,      wuli      cip=eyse sip      pwun-ccum      te      alay=lo  
 行く-PURP-ADV.COND    わたしたち 家=ABL    10    分-ほど      さらに    下=ALL  
 naylye#ka-ya hay-ss-ta.

下る:ADV#行く-OBLG-PST-DECL

「ポンプが取り付けられた共同井戸まで行くには、ぼくらの家から十分くらい坂を下らなければならなかった」(孫 2012: 22)

基礎資料からの例も挙げておこう。(23) の例では椅子を寄せておいたのは特に誰と  
 いうことが言及されておらず、ただ動作の結果のみが述べられている。(24) の例も同  
 様に手入れをしたのは不特定の誰かであるが、その結果のみが -(a/e) noh- によって表  
 されている。

- (23) 복도 벽에 붙여놓은 긴 의자에는 더러 환자의 가족이 아무것도 덮지 않고 새우잠에 들어 있었다.

pokto    pyek=ey    pwuthye#noh-un      ki-n      uyca=ey=nun    tele  
 廊下    壁=DAT    つける:ADV#おく-ADN.PST    長い-ADN.NPST    椅子=DAT=TOP    時々  
 hwanca=uy    kacok=i    amwukes=to    teph-ci      anh-ko  
 患者=GEN    家族=NOM    なに=も      かける-NMLZ    NEG-ADV.SEQ  
 saywucam=ey      tul-e iss-ess-ta.

背中を丸くして寝ること=DAT    入る-DUR-PST-DECL

「廊下の壁に寄せてある長椅子には時々患者の家族がなにもかけずに背中を丸くして寝ていた」[2CE00012]

- (24) 호텔정원에 가꾸어 놓은 수목들과 꽃들에 맑은 이슬들이 맺혀 구슬처럼 떨어지고 있었다.

hotheyl#cengwen=ey    kakkwu-e      noh-un      swumok=tul=kwa  
 호텔#庭園=DAT      手入れする-ADV    おく-ADN.PST    樹木=PL=COM  
 kkoch=tul=ey    malk-un      isul=tul=i    maychy-e    kwusul=chelem  
 花=PL=DAT      澄んでいる-ADN.NPST    露=PL=NOM    結ばれる-ADV    珠=ように  
 tteleci-ko iss-ess-ta.

落ちる-PROG-PST-DECL

「ホテルの庭園の手入れされた樹木と花たちに澄んだ露がつき、珠のように落ちていた」[CE000025]

この点に関して, -(a/e)noh- と -(a/e)twu- 比較した Lee (1993) の指摘に注目してみる. Lee (1993: 265) は二つの補助動詞を比較しつつ, (25a) に比べ (25b) が不自然なのは, 猫は人のようにある結果状態を維持することができないためであると述べている.

(25) a. 고양이 가 꽃밭을 파헤쳐 놓았다.

koyangi=ka kkochpath=ul phaheyche noh-ass-ta.

猫=NOM 花畑=ACC 掘り返す:ADV おく-PST-DECL

「猫が花畑を掘り返した」

b. ?고양이가 꽃밭을 파헤쳐 두었다.

koyangi=ka kkochpath=ul phaheyche twu-ess-ta.

猫=NOM 花畑=ACC 掘り返す:ADV おく-PST-DECL

「?猫が花畑を掘り返しておいた (今後のために)」

このように, -(a/e)noh- は不特定の主体にも使用可能なのに対し, -(a/e)twu- は主体が人間である必要がある. -(a/e)noh- はまた無生物主語の場合の例もある. 次の (26) では kesey-n mwulcwulki 「激しい水しぶき」が主語になっている.

(26) 거센 물줄기가 아이의 상의까지 튀어 적셔놓았다.

kesey-n mwulcwulki=ka ai=uy sanguy=kkaci thwi-e

激しい-ADN.NPST 水の流れ=NOM 子供=GEN 上着=まで 跳ねる-ADV

ceksye#noh-ass-ta.

濡らす:ADV#おく-PST-DECL

「激しい水しぶきが子供の上着まで跳ねて濡らしてしまった」 [BRE00296]

## 5. V1 の特徴から見た補助動詞 -(a/e)noh- の意味

表 1 で見たように, -(a/e)noh- の V1 にはヴォイス接辞を取りうる, あるいは取っている動詞が多い. 表 1 に挙げた 50 個の動詞のうち, 35 個がそれに該当する. それらの動詞は表 1 にもあるとおり「立てる」「開く」「残す」のような客体の位置, 状態の変化を表す動詞であった. ヴォイス接辞を取りうる動詞は, 単に他動詞のみでは (3) で見たようにただ動作を行ったことのみを表し, その結果状態までは含意しない. そして, その結果状態を表すためにヴォイス接辞を付けて対応する自動詞を派生させると考えることができる. あるいは, 他動詞をヴォイス接辞で派生させる場合も同様である. 結果状態まで含意するということを他動詞のままで表すために -(a/e)noh- が用いられるわけである. このように -(a/e)noh- の V1 にヴォイス接辞を取る動詞が多いということは, -(a/e)noh- が対象への働きかけよりも動作の結果に焦点ある形式だということも関連があると考えられる.

‘漢字語+sikhi- (させる)’ は普通, 使役を表すが他動詞として振る舞うことがある.



基礎資料中には *-(a/e)noh-* の V1 が他動詞的な ‘漢字語+sikhi- (させる)’ である例がしばしば見られた。その場合、漢字語が *sikhi-* ‘させる’ ではなく *ha-* ‘する’ を伴う場合との競合が問題になる。柴 (1992: 132-134) では、‘漢字語+*ha-*’ と ‘漢字語+sikhi-’ がどちらも他動詞として用いられる例を考察し、インフォーマント調査から *ha-* 形の *phokpha#ha-* ‘爆破する’ と *sikhi-* 形の *phokpha#sikhi-* ‘爆破させる’ では、前者は単に意志や行動を表すが、後者は受動物の変化の方に力点が置かれた表現であるという報告をしている。基礎資料中では、*-(a/e)noh-* の V1 が *sikhi-* 形の *koceng#sikhi-* ‘固定させる’ が 7 例であったのに対し、*ha-* 形の *koceng#sikhi-* ‘固定する’ は 1 例のみであった。*koceng#sikhi-* の例を見てみよう。

- (27) 남미 산간 지방의 어린 목동들이 쓰고 다닌다는 그 소형 모자를 나는  
거실의 벽에 핀으로 고정시켜놓았다.

nammi sankan cipang=uy eli-n moktong=tul=i ssu-ko

南米 山間 地方=GEN 幼い-ADN.NPST 牧童=PUL=NOM かぶる-ADV

tani-nta-nun ku sohyeng moca=lul na=nun kesil=uy pyek=ey

往来する-DECL-QUOT.ADN その 小型 帽子=ACC わたし=TOP 居室=GEN 壁=DAT

phin=ulo koceng#sikhye#noh-ass-ta.

ピン=INST 固定#させる:ADV#おく-PST-DECL

「南米の山間地方の幼い牧童たちがかぶって生活するというその小型の帽子を、  
わたしは居室の壁にピンで固定しておいた」 [3BES0006]

「受動物の変化の方に力点が置かれた」表現である *sikhi-* 形がより用いられたということも、*-(a/e)noh-* が動作よりも、その結果に焦点があることと関連すると考えられる。もう一つ例を挙げておこう。

- (28) …그나마 전력이 약해서 변압기를 연결시켜놓지 않으면 안 되는  
라디오였다.

...kunama cenlyek=i yakhayse pyenapki=lul yenkyel#sikhye#noh-ci

そのうえ 電力=NOM 弱い-ADV.SEQ 変圧器=ACC 連結#させる:ADV#おく-NMLZ

anh-umyen an toy-nun latio-yess-ta.

NEG-ADV.CONDNeg なる-ADN.NPST ラジオ-COP:PST-DECL

「そのうえ電力が弱く変圧器を連結させておかないといけないラジオだった」

[CE000027]

## 6. V1 のタイプ別に見た補助動詞 *-(a/e)noh-* の意味

ここでは 5 節で明らかにした *-(a/e)noh-* の動作の結果に焦点をあてるという意味を、V1 の動詞クラスごとに確認していくことにする。I. Kitong (1979: 72-75) では、*-(a/e)noh-* と共起する動詞を、① *mil-* ‘押す」、*kkoch-* ‘挿す」などの「動作の方法」を表

す動詞, ②「作成」動詞, ③ kochi-「直す」, pwuswu-「壊す」のような「影響」動詞, ④ sayngkakha-「考える」などの精神活動, ⑤ 意思伝達, ⑥ kkwucic-「叱る」, tallay-「慰める」などの精神的変化を表す動詞の六つに大別している。すでに述べたように李 (2012) では, 様々な移動変化に関わる意味拡張と, 状態変化やある事態の産出に関わる意味拡張の二つを大別している。本研究では李 (2012) とは異なった分類を提案したい。本研究では, ある動作の結果, 客体にある状態や位置変化の完遂を意味する場合と, ある動作の結果, 客体が生じる場合との二つに大きく -(a/e) noh- の意味を区別する。李 (2012) と本研究の主な違いは, 状態変化に関わる意味をどのように分類するかという点である。しかし, ここで提案する二つの分類も結局は対象への働きかけよりも動作の結果(物)に焦点があるという中心的な意味に還元できるものと考えられる。以下で, I, Kitong (1979: 72-75) の動詞分類を参考に具体例を見ていくことにする。

### 6.1. 状態, 位置変化の完了

動作の結果, 客体の状態や位置変化を起こす場合の例は, 主に, i) 外的な変化, つまり客体の移動に関わる動詞, ii) 内的な変化, つまり状態の変化を引き起こす動詞, -(a/e) noh- が結合する場合に分けられる。ii) には精神活動を表す動詞も含まれる。上で述べた I, Kitong (1979: 72-75) の分類では, ①, ③, ⑤, ⑥の動詞に該当する。

まず, i) 外的変化の場合から見てみよう。ヴォイス接辞を取りうる動詞の多くもここに含まれる。このような動詞が -(a/e) noh- を取る場合の意味について, まずは I, Kitong (1979: 57) が挙げている例を見てみよう。

#### (29) a. ?철수가 상자를 부엌에 밀었다.

chelswu=ka sangca=lul pwuekh=ey mil-ess-ta.

チョルス=NOM 箱=ACC 台所=DAT 押す-PST-DECL

「?チョルスが箱を台所に押した」

#### b. 철수가 상자를 부엌에 밀어 놓았다.

chelswu=ka sangca=lul pwuekh=ey mil-e noh-ass-ta.

チョルス=ACC 箱=ACC 台所=DAT 押す-ADV おく-PST-DECL

「チョルスが箱を台所に押しやった」

(I, Kitong 1979: 57)

I, Kitong (1979: 57) によれば, (29a) は単にある動作があったことのみを表すが, 一方 (29b) は, その動作の結果, 対象がある場所に位置したことを表すという。このように, 対象を移動させたり, 対象へなんらかの働きかけをする動詞には, mil-「押す」の他, seywu-「立てる」, ttey-「取る, 離す」, yel-「開ける」, namki-「残す」, pwuthi-「付ける」, kel-「掛ける」などが該当する。頻度としては, このタイプの動詞が最も多い。

次に ii) 内的な変化, つまり状態の変化を引き起こす動詞について見る。



(30) 그가 피아노를 고쳐 놓았다.

ku=ka piano=lul koche noh-ass-ta

彼=NOM ピアノ=ACC 直す:ADV おく-PST-DECL

「彼がピアノを直した」(I, Kitong 1979: 60)

この例においてもやはり, -(a/e)noh- が用いられることによって, 「直っている」状態変化後までが含意されるという (I, Kitong 1979: 60). このタイプには khye-「点ける」ccic-「裂く」, takk-「拭く」, mangchi-「滅ぼす」, kochi-「直す」などの動詞がある.

この二つのタイプの動詞が引き起こす事象は Croft (1991) の因果連鎖 (causal chain) あるいは行為連鎖 (action chain) モデルを使い, (31) のように表すことができる. (31) は大堀 (2002) にならい提示する.

(31)



(31) は動作主がある意図 (VOL) を持って活動 (ACT) を行い, それが対象<sup>9)</sup>に対して影響を及ぼし (CAUSE), 対象が移動 (MOVE) あるいは変化 (BECOME) しある状態 (STATE) に至る. (29) で挙げたような対象の移動を伴う動詞は MOVE, (30) で挙げたような状態の変化を伴う動詞は BECOME と関連付けることができる. -(a/e)noh- は移動あるいは変化を経てある状態に至った対象に焦点をあててるが, (31) ではこのことを点線の囲みで示した.

## 6.2. 結果物の産出

-(a/e)noh- が取る V1 には動作の結果, 対象を生み出すことに関わる動詞が来ることもある. I, Kitong (1979: 72-75) の分類では②, ④に該当する. (32) の例であれば手紙を書くという行為を行った結果, 手紙が書き上がったことを, (33) の例であれば考えるという行為を行った結果, 妙案を思いついたことを意味する.

(32) 그는 편지를 써 놓았다.

kunun phyenci=lul sse noh-ass-ta.

彼=TOP 手紙=ACC 書く:ADV おく-PST-DECL

「彼は手紙を書きあげた」(I, Kitong 1979: 59)

(33) 나는 묘안을 생각해 놓았다.

na=nun myoan=ul sayngkakhay noh-ass-ta.

わたし=TOP 妙案=ACC 考える.ADV おく-PST-DECL

「わたしは妙案を思いついた」(I, Kitong 1979: 61)

なんらかの対象の産出に関わる動詞には他に, mantul-「作る」, chali-「用意する」, cwunpiha-「準備する」, sacin=ul ccik-「写真を撮る」, kuli-「描く」, ssu-「書く」がある. 次の (34) のような例も食べ物を注文した結果, その対象物が生じるという点では, このグループに入れていいだろう.

(34) 나는 맥주 두 병에 마른 안주 하나를 시켜놓고 술을 마셨다.

na=nun maykcwu twu pyeng=ey malu-n ancwu hana=lul

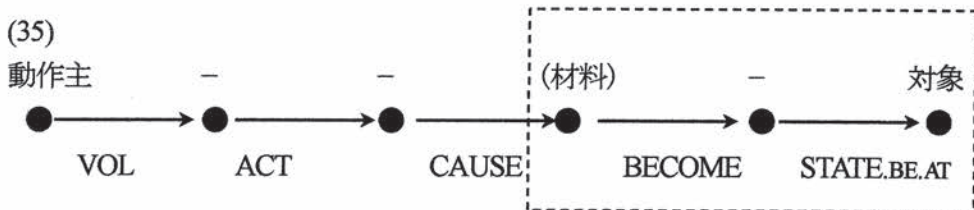
わたし=TOP ビール 二つ 瓶=DAT 乾く-ADN.PST つまみ 一つ=ACC

sikhye#noh-ko swul=ul masy-ess-ta.

たのむ.ADV#おく-ADV.SEQ 酒=ACC 飲む-PST-DECL

「わたしはビール二瓶に乾き物を注文してお酒を飲んだ」[2CE00008]

(31) のように, 対象の産出に関わる例を図示すれば, (35) のように示すことができる.



動作主がある意図 (VOL) を持って活動 (ACT) を行い, それが材料<sup>10)</sup>に対して影響を及ぼし (CAUSE), 材料が変化 (BECOME) するという段階を経て対象が存在するという状態 (STATE.BE.AT) に至る。「材料」は (36) のように表されることもあるが, (32), (33) で見たように直接は表されない, 表しえない場合も多い。「書く」の場合は, 紙という材料に文字を記すことで影響を及ぼし, 手紙という対象が存在するようになるが, 「考える」の場合は, なにか具体的な材料となるものがあって妙案が存在するようになるわけではない. そのため (35) で材料は括弧に入れてある. (36) では「か細い木」を材料として, 「鳥かご」を作成したということが明示されている.

(36) 가느다란 나무로 네모반듯하게 만들어놓은 새장이었고 처마에 매달려 있더군요.



*kanutala-n namwu=lo neymopantusha-key mantul-e#noh-un*  
 か細い-ADN.NPST 木=INST 真四角だ-ADV LZ 作る-ADV#おく-ADN.PST  
*sayang-i-ess-ko chema=ey maytally-e iss-te-kwun=yo.*  
 鳥かご-COP.PST-ADV.SEQ 軒=DAT つるされる-DUR-IMP-ADM=POL

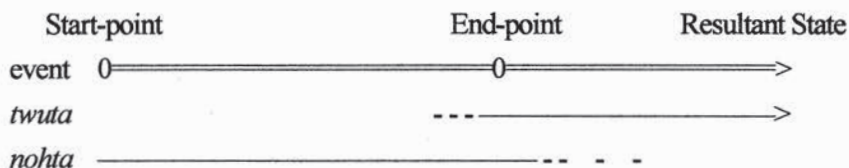
「か細い木で真四角に作られた鳥かごで、軒につりさげられていましたよ」

[6BE00012]

(31) で示した対象の移動、状態変化に関わる場合にしろ、(35) で示した対象の産出に関わる場合にしろ、対象への働きかけよりも動作の結果(物)、つまり (31), (35) の図では点線の囲みで示した段階に焦点があるということには変わらない。このように -(a/e) noh- の意味を捉えることで、例えば 4.5 で見た主体が不特定の場合の -(a/e) noh- の例が可能なのは、意図 (VOL) が焦点から外れているからだと説明することができる。

Rhee (1997: 169) は -(a/e) twu- と -(a/e) noh- の表す意味を以下の図のように示している。

(37) 補助動詞 -(a/e) twu- と -(a/e) noh- の意味の強調 (Rhee 1997: 169)



Rhee (1997: 169-170) は -(a/e) noh- が強調するのは、事態の開始から終了までと述べているが、この見解とは異なり本研究では -(a/e) noh- は動作の結果(物)に焦点があると分析した。その理由は 4 節で述べたとおりである。

## 7. 他の言語における [V1 + PUT]

Masica (1976) や Heine & Kuteva (2002), Anderson (2006) でも指摘されているように、‘PUT’ という語彙的意味を持った動詞が文法化して補助動詞として用いられる例は、日本語や朝鮮語に限らず様々な言語に見られる。

Anderson (2006) は補助動詞の文法化のソースとして、positional/postural event schema, motion event schema などを挙げており、‘PUT’ はその他 ‘GIVE’, ‘HIT’, ‘SEND’, ‘SEE’, ‘TAKE’ などとともに、action event schema に入る。Anderson (2006: 352) は action event schema は様々なアスペクト的意味、あるいは Aktionsart を表すようになると述べており、‘PUT’ が補助動詞へ文法化した例として ‘immediate’ (即時) と ‘perfective’ (完了) の例を挙げている。(38), (39) はそれぞれの例である。(38) のグロスとは Anderson (2006: 354) に従う。(39) は Anderson (2006: 354) で挙げられた Anderson (1998) からの例とは

異なるが、より perfective の意味がわかりやすいと考えられる例を、同じ引用元から挙げておく。ボールドは引用者による。

put > IMM

(38) Tofa (Turkic language)

*kör-ü sal-i eëttir-di*<sup>11)</sup>

see-CV AUX-CV ask-REC.PST

“as soon as he saw, he asked” (Rassadin 1978: 154)

[CV: converb, AUX: auxiliary (verb), REC.PST: recent past]

put > PRF

(39) Xakas (Turkic language)

*mayaa ol ileede pis'mo is saldi*

I:DAT he many letter send PERF.IIIa-PST.I

“he has sent me many letters already” (Anderson 1998: 65)

[PERF: perfective]

Heine & Kuteva (2002: 248) ではまた、Imonda の pada ‘put’ が ‘finished’ という意味を表す periphrastic terminative aspect marker になった例、Yagaria の bolo- ‘put’ が completive になった例を挙げている。ボールドは引用者による。

(40) Imonda (Papuan language)

*ainam uai-fuhō-pada-u!*

quickly ACC-go.up-finish-IMP

“Be quickly finished with your climb!” (Seiler 1985: 104)

[IMP: imperative]

(41) Yagaria (Papuan language)

*iyalamu' hu-bolo-d-i-e*

shelf make-put-PAST-3.SG-IND

“He built a shelf completely.” (Renck 1975: 94)

[IND: indicative]

これまで考察したように、朝鮮語の -(a/e)noh- は対象への働きかけよりも動作の結果(物)に焦点がある。(39) から (41) を見ると、朝鮮語の [V1 + PUT] は perfective/terminative/completive といった、なんらかのアスペクトの意味を表す例と類似していることがわかる。それぞれの言語において [V1 + PUT] どのような意味で perfective/terminative/completive といった意味を表すかについては、さらに研究が必要である。



朝鮮語の *-(a/e) noh-* は日本語の「ておく」とは異なるように見えるが、野島本泰 (2011) が報告しているように神奈川県座間市と相模原市の方言では、例えば「植えとく」が「植えるという行為が終わって、その結果である「植えたものが植わっている」という状態が存在していること」を表しうるといふ。このように日本語の方言によっては *-(a/e) noh-* と似て、結果状態に焦点がある「ておく」もあるようである。

I, Kitong (1979: 79) では *-(a/e) noh-* は「動作が完了し、その動作から生じた状態が発話時まで残る」ということを表すという意味では、結果状態のアスペクト形式 *-(a/e) iss-* と同じ意味を表すと述べている。しかし、4.3 で見たように *-(a/e) noh-* には後にもう一つのアスペクト形式である *-ko iss-* が承接しうる点、*-(a/e) noh-* の V1 が取る動詞は表 1 に挙げたように固有語が多く、動詞のタイプにも偏りがある点を考慮すると、*-(a/e) noh-* はより動詞のアスペクト的に意味に近い性質を持っていると言える。

## 8. まとめと今後の課題

本研究では朝鮮語の補助動詞 *-(a/e) noh-* を実際の用例の分析に基づき、i) 過去連体形、ii) 連用形語尾 *-ko*、iii) アスペクト形式 *-ko iss-*、iv) 結果性を表す副詞、v) 不特定の主体という観点から、形と意味の両面で客観的に考察した。その結果、*-(a/e) noh-* の意味を次のように規定した。

*-(a/e) noh-* は (特に対象の変化、移動を伴う他動詞、または産出を伴う他動詞を取り) 対象への働きかけではなく、動作の結果(物)に焦点を置く補助動詞である。

さらに、*-(a/e) noh-* の V1 にはヴォイス接辞を取りうる、あるいは取っている動詞が多いことも指摘した。また、他の言語の [V1+PUT] にも言及し、朝鮮語の *-(a/e) noh-* は他の言語で *perfective/ terminative/ completive* などと呼ばれるアスペクト形式に近い文法化を経ているということを見た。

これまでの研究では、同じ「置く」という意味を持つ動詞が補助動詞になった *-(a/e) noh-* と *-(a/e) twu-* を対照する研究が多かった。*-(a/e) noh-* の意味をさらに研究するには、Son, Seymotol (1996) が行ったように、他の完了を表すとされる補助動詞との対照が重要となるだろう。本研究では *-(a/e) noh-* が聞き手への非難を表す (5) のような例については詳しく扱えなかったが、他の言語の [V1+PUT] との対照においても、どのような意味拡張が起こったかを考察することは重要であると考えられる。Prashant (2013) では、日本語、朝鮮語、モンゴル語、ウズベク語、タジク語、マラーティー語など、さまざまな言語における [V1+PUT] で、V1 がどのような動詞を取りうるか調査しているが、動詞のタイプのみならず、[V1+PUT] がどのような意味を表しうるかにまで迫った研究が待たれる。他の言語の [V1+PUT] との対照においては、補助動詞の意味を単に「完了」のようにラベル付けするだけでは不十分であり、本研究で行ったような詳細な意味分析が必要である。本研究が [V1+PUT] 研究に少しでも寄与するところがあれば幸いである。

## 略号一覧

本稿で使用した略号は以下のとおりである。なお、例 (38) から (41) の略号は除く。

ABL: ablative (奪格), ACC: accusative (対格), ADM: admirative (感嘆), ADN: adnominal form (連体形), ADV: adverbial form (連用形), ADVLZ: adverbializer (副詞化), ALL: allative (与格), COM: comitative (共格), COMP: complementizer (補分標識), COND: conditional (条件), COP: copula (指定詞), DAT: dative-locative (与位格), DECL: declarative (陳述), DESI: desiderative (願望), DISC: discontinuous (中断): DUR: durative (結果継続), GEN: genitive (属格), IMPF: imperfective (未完了), INST: instrumental (具格), INTRR: interrogative (疑問), IRR: irrealis (非現実), NEG: negative (否定), NMLZ: nominalizer (名詞化), NOM: nominative (主格), NPOL: non polite (非丁寧), NPST: non past (非過去), OBLG: obligation (義務), PL: plural (複数), POL: polite (丁寧), PROG: progressive (進行), PST: past (過去), PURP: purposive (目的), QUOT: quotative (引用), SEQ: sequential (継起), SIM: simultaneous (同時), TOP: topic (主題)  
#: 語境界, =: 接語境界, -: 接辞境界

## 《註》

- 1) 本稿は日本言語学会第 149 回大会 (2014 年 11 月 15 日) にて口頭発表した「現代朝鮮語の補助動詞 ‘nohta’ について—[V1+PUT] 研究—」の内容を修正し、加筆したものである。発表の際、またその後、質問、コメントをくださった方々に感謝申し上げる。なお、本研究は一部 JSPS 科研費 JP16J07745 の助成を受けたものである。
- 2) ハングルは Yale 式ラテン文字転写をして示す。ラテン文字転写には浅尾仁彦氏が作成した「ハングル→イェール式ローマ字変換」(<http://asaokitan.net/tools/hangul2yale/>) を利用した。ただし、両唇音 (p, pp, ph, m) に付く wu は u で表記せず、そのまま wu で転写している。
- 3) これらの補助動詞はそれぞれ連用形 -a/e の後に接続する。本稿では補助動詞の場合をそれぞれ -(a/e) noh- と -(a/e) twu- のように示す。
- 4) ヴォイス接辞の認定は菅野 (1987: 61-64) に倣う。朝鮮語のヴォイス接辞は同じ接辞が使役接辞としても受身接辞として用いられる。さらに、使役は他動詞的にも、受身は自動詞の意味も表しうる。ちなみに菅野 (1987: 61-64) ではこれをヴォイス接尾辞と呼ぶ。
- 5) ヴォイス接辞により派生された動詞と、派生される前の動詞のペアを次に示す。動詞のペアの前の数字は表1の順位を表している。  
2. nay- 「出す」: na- 「出る」 / 3. nul- 「伸びる」: nulli- 「伸ばす」 / 4. olli- 「上げる」: olu- 「上がる」 / 5. thel- 「はたく、はらう」: thelli- 「(ほこりなどが) 落ちる」 / 6. tuli- 「入れる」: tul- 「入る」 / 8. seywu- 「立てる」: se- 「立つ」 / 11. yel- 「開ける」: yelli- 「開く」 / 13. phwul- 「解く」: phwulli- 「解ける」 / 14. namki- 「残す」: nam- 「残る」 / 15. pwuthi- 「付ける」: pwuth- 「付く」 / 16. khye- 「点ける」: khyei- 「点けられる」 / 17. thul- 「ひねる」: thulli- 「ねじられる」 / 18. olmki- 「移す」: olm- 「移る」 / 19. kel- 「掛ける」: kelli- 「掛かる」 / 20. pes- 「脱ぐ」: peski- 「脱がす」 / 21. tulenay- 「あらわにする」: tulena-



「あらわになる」/ 22. ssah-「積む」: ssahi-「積まれる」/ 25. ssu-「書く」: ssui-「書かれる」/ 26. mil-「押す」: milli-「押される」/ 27. anchi-「座らせる」: anc-「座る」/ 28. mou-「集まる」: moi-「集める」/ 32. pakkwu-「変える」: pakkwi-「変わる」/ 34. phye-「広げる, 伸ばす」: phyei- / phyey-「広げられる, 伸ばされる」/ 36. mwukk-「束ねる」: mwukki-「束ねられる」/ 37. mathki-「預ける」: math-「預かる」/ 40. swumki-「隠す」: swum-「隠れる」/ 41. cek-「記す」: cekhi-「記される」/ 42. enc-「載せる」: enchi-「載せられる」/ 43. kkal-「敷く」: kkalli-「敷かれる」/ 44. teph-「覆う」: tephi-「覆われる」/ 46. kkoc-「挿す」: kkochi-「挿される」/ 47. twicip-「ひっくり返す」: twiciphi-「ひっくり返される」/ 48. thu-「開く」: thui-「開かれる」/ 49. cap-「つかむ」: caphi-「つかまる」/ 50. kalu-「分ける」: kalli-「分かれる, 分けられる」

- 6) 基礎資料の中には, 次の (i) のように自動詞である mangha-「亡」滅びる」が -(a/e) noh-n を取り, 他動詞のように振る舞っている例が観察された. V1 の制約についてはさらに調査が必要である.

(i) ...있는 죄를 만들어서 남을 망해 놓고...

... eps-nun          coy=lul   mantul-ese   nam=ul   manghay   noh-ko ...  
 ない-ADN.NPST   罪=ACC   作る-ADV.SEQ   他人=ACC   滅ぼす-ADV   おく-ADV.SEQ  
 「...ない罪を作って他人を滅茶苦茶にしておいて...」 [2BEXXX13]

- 7) Son, Seymotol (1996) では他にも完了の意味を持つ補助動詞 -(a/e) peli- (ADV すてる) 「～してしまう」, -(a/e) nayta (ADV だす) 「～しきる, ～しぬく, ～しおえる」を一緒に論じている.
- 8) 補助動詞 -(a/e) noh- が過去連体形の場合に被修飾名詞が動作の主体であるような例が非文法的というわけではないようである. 次の (ii) Google ブックスからの例である. ここでは動作の主体である ku 「彼」が被修飾名詞になっている.

(ii) 캐리어를 한 쪽에 세워 놓은 그는 그녀의 소파에 앉았다.

khaylie=lul          han   ccok=ey seywe   noh-un   ku=nun   kunye=uy sophae=ey  
 キャリーバッグ=ACC   ひとつ   方=DAT   立てる-ADV   おく-ADN.PST   彼=TOP   彼女=GEN ソファ=DAT  
 anc-ass-ta.  
 座る-PST-DECL  
 「キャリーバッグを片側に立てた彼は, 彼女のソファに座った」 [충동의 후유증 2:  
[https://books.google.co.jp/books?id=BCBKDQAAQBAJ&hl=ja&source=gbs\\_navlinks\\_s](https://books.google.co.jp/books?id=BCBKDQAAQBAJ&hl=ja&source=gbs_navlinks_s)]

ただ, ここで示した調査結果のとおり, -(a/e) noh- と結合した場合, 過去連体形の被修飾名詞が動作の対象となる傾向があるということは言えそうである.

- 9) 大堀 (2002: 106) では「ACT リンクの終点にある参加者を, 場所や状態の変化を経るものとは区別して対象 (object) と」呼んでいるが, ここでは単に場所, 状態の変化を経るもの, または動作の結果, 産出されるものをまとめて対象と呼んでおく.
- 10) 「材料」は大堀 (2002) が設定している参加者のラベルではなく, 筆者が独自に設定したものである.
- 11) Anderson (2006: 354) は *ēētir* と記しているが, Rassadin (1978: 154) では *ēētir* であったため後者に従って改めた.

《参照文献》

朝鮮語で書かれたもの

- I, Kitong (1979) 'cotongsa "nohta"uy uymi yenkwu' [助動詞 "nohta"の意味研究], "hankul" 163: 49-80.  
hankulhakhoy. (이기동 (1979) '조동사 "놓다"의 의미 연구', "한글" 163: 49-80. 한글학회.)
- 李京保 (2012) 'pocotongsa "e nohta"uy uymi yenkwu' [補助動詞 "e nohta"の意味研究], "外國語文研究" 17: 1-19. 國立政治大學外國語文學院. (李京保 (2012) '보조동사 "어 놓다"의 의미 연구' )
- Kwuklipkwukeyenkwuwen [国立国語研究院] (1999) "phyocwunkwuketaysacen" [標準国語大辞典]. Seoul: twusantonga. (국립국어연구원 (1999) "표준국어대사전", 서울: 두산동아)
- Se, Cengswu (1994) "kwukemwunpep" [国語文法]. Seoul: ppwulikiphunnamwu. (서정수 (1994) "국어문법". 서울: 뿌리깊은나무.)
- Son, Seymotol (1996) "kwuke pocoyongen yenkwu" [国語の補助用言研究]. Seoul: hankwukmwunhwasa. (손세모돌 (1996) "국어 보조용언 연구". 서울: 한국문화사.)

日本語で書かれたもの

大堀壽夫 (2002)『認知言語学』東京：東京大学出版会.

- 岡智之 (2006)「'e nohta' と 'e twuta' の意味分析～認知言語学的観点から～」『韓中人文科学研究』1 (18): 423-443. hancwunginmwunhakhoy. (岡智之 (2006)「'어 놓다' と '어 두다' の意味分析～認知言語学的観点から～」『韓中人文科学研究』1 (18): 423-443. 한중인문학회.)
- 菅野裕臣 (1987)「中級講座 用言 (5)―文法範疇 (2)―」『基礎ハングル』11: 60-69. 東京：三修社
- 野島本泰 (2011)「神奈川県座間市と相模原市の方言における、「結果状態」を表す補助動詞「おく」」大西正幸・稲垣和也 (編)『地球研言語記述論集 3』97-110. 京都：総合地球環境学研究所・インダスプロジェクト.
- 柴公也 (1992)「漢字語 + sikhita」について 再帰性・他動性・使役性・受動性との関わりをめぐって - ,『朝鮮学報』144: 87-150. 朝鮮学会. (柴公也 (1992)「漢字語+시키다」について 再帰性・他動性・使役性・受動性との関わりをめぐって - )
- 孫ミナ (2012)「韓国語と日本語における補助動詞 'nohta', 'twuta' と 'おく' の対照研究 ―'nohta', 'twuta', 'おく' と結合する動詞を中心として―」, 東京外国語大学修士論文 (未公開). (孫ミナ (2012)「韓国語と日本語における補助動詞 '놓다', '두다' と 'おく' の対照研究 ― '놓다', '두다', 'おく' と結合する動詞を中心として―」)

英語で書かれたもの

- Anderson, Gregory D. S. (1998) *Xakas*. (Languages of the World/Materials 251) Munich: Lincom Europa.
- Anderson, Gregory D. S. (2006) *Auxiliary verb constructions*. Oxford: Oxford University Press.
- Croft, William (1991) *Syntactic categories and grammatical relations: the cognitive organization of information*. Chicago: University of Chicago Press.
- Heine, Bernd and Kuteva, Tania (2002) *World Lexicon of Grammaticalization*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Lee, Keedong (1993) *A Korean Grammar on Semantic-Pragmatic Principles*. Seoul: hankwukmwunhwasa. (서울: 한국문화사.)
- Masica, Colin (1976) *Defining a linguistic area: South Asia*. University of Chicago Press.
- Prashant, PARDESHI (2013) 'Synchronic exploration in search of diachronic paths: A contrastive study of the grammaticalization of "PUT/KEEP" in Japanese, Marathi and other Asian languages', NINJAL INTERNATIONAL SYMPOSIUM 2013 MYSTERIES OF VERB-VERB COMPLEXES IN ASIAN LANGUAGES 発表資料



<http://www.ninjal.ac.jp/vvsympo/KEEP-NINJAL-VVSYMPO-2013-presentationversion-PP.pdf>

Renck, G. L. (1975) *A Grammar of Yagaria*. Canberra: Department of Linguistics Research School of Pacific Studies, Australian National University.

Rhee, Seongha (1997) Grammaticalization of Korean placement verbs. *The SECOL review* 21.2: 142-182.

Seiler, Walter (1985) *Imonda, a Papuan language*. Canberra: Department of Linguistics Research School of Pacific Studies, Australian National University.

#### ロシア語で書かれたもの

Rassadin, V. I. (1978) *Morfologija tofalarskogo jazyka v sravnitel'nom osveščanii* [対照的観点から見たトファ語形態論]. Moscow: Nauka. (Рассадин, В. И. (1978) *Морфология тофаларского языка в сравнительном освещении*. Москва: Наука.)

## 현대 한국어의 보조동사 ‘-(아/어) 놓-’ : [V1+PUT] 연구

구로시마 노리후미

동경외국어대학 대학원 / 일본학술진흥회 특별연구원

본 연구는 현대 한국어의 보조동사 ‘-(아/어) 놓-’의 의미를 실제 언어자료를 바탕으로 밝히는 것을 목적으로 한다. 현대 한국어에는 ‘PUT’이라는 어휘적 의미를 가진 동사로 ‘놓-’, ‘두-’의 두 가지가 있으며 둘 다 문법화되어 보조동사로서 주로 사용된다. 이들 보조동사를 비교하면서 의미를 밝히려고 하는 연구는 많이 이루어져 왔다. ‘-(아/어) 놓-’, ‘-(아/어) 두-’의 의미를 ‘(결과) 유지’로 규정한 연구가 대다수였던 반면 ‘-(아/어) 놓-’은 ‘완료’를 나타낸다고 하는 연구도 있었다. 그러나 ‘-(아/어) 놓-’의 의미를 단순히 ‘(결과) 유지’나 ‘완료’로 규정하는 것만으로는 부족하다고 생각된다. 따라서 본 연구는 ‘-(아/어) 놓-’의 의미를 형태와 의미의 양쪽 관점에서 좀 더 객관적으로 분석하기 위해 다음의 다섯 가지 관점을 세웠다: 1) 과거 관형사형, 2) 연결어미 ‘-고’, 3) 상(相)을 나타내는 ‘-고 있-’, 4) 결과성 부사, 5) 불특정한 주체. 그 결과 본 연구는 보조동사 ‘-(아/어) 놓-’의 의미를 다음과 같이 규정했다.

‘-(아/어) 놓-’은 어떤 대상에 영향을 주려고 하는 동작보다 동작의 결과 혹은 결과물에 초점이 있는 보조동사이다.

본 연구에서는 ‘-(아/어) 놓-’이 취하는 동사를 ‘상태, 위치 변화의 완료’와 ‘결과물 산출’로 분류한 다음 이 두 가지 동사를 취했을 때의 ‘-(아/어) 놓-’의 의미를 Croft 의 인과연쇄(causal chain)를 도입해 제시했다. 또 ‘-(아/어) 놓-’이 취하는 동사는 ‘-이-, -히-, -리-, -기-’ 등의 사동, 피동을 나타내는 접미사와 결합한 동사 또는 결합 가능한 동사가 많다는 것을 지적했다. 이러한 경향도 본 연구에서 규정한 ‘-(아/어) 놓-’의 의미와 관련 지어서 설명할 수 있다.

본 연구에서는 또한 다른 언어의 [V1 + PUT] 구문과 ‘-(아/어) 놓-’을 대조해 ‘-(아/어) 놓-’은 perfective 와 같은 상적인 의미를 나타내는 언어들과 유사하다는 점을 지적했다.